

会 議 録

会議名	辰野町文化財保護審議会（第1回）
開催日時	令和2年9月24日（木） 午後1時30分～午後3時30分
場所	町民会館 104号学習室
出席者	14名中 12名（審議委員8名、事務局4名）

会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 教育長あいさつ 4. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 文化財保護事業 事業計画および経過報告について (2) シダレグリ再生事業経過報告 (3) 矢彦神社修繕事業経過報告 (4) 『辰野町資料』の刊行計画について (5) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・町誌編纂時採訪史料について ・『辰野町の指定文化財』印刷について ・赤羽焼かま修繕 ・油屋大戸修繕 ・辰野町景観条例について ・資料館構想について 5. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・神明神社の天狗祭りについて ・樹木診断の結果について ・事務連絡 6. 閉会
------	---

会議結果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 教育長あいさつ 4. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 文化財保護事業 経過報告 事業計画について <ol style="list-style-type: none"> ① 文化財保護審議会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 【中止】 文化財パトロール ・ 11月 『辰野町資料』122号発行 ・ 11月 県文化財保護研修会 ・ 3月 『辰野町資料』123号発行 ・ 3月 文化財保護審議会（第2回） ② 文化財保護活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月11日 【中止】 油屋保存会総会・清掃 ・ 5月9日 【中止】 油屋清掃作業 ・ 5月13日 【中止】 十一面観音拝観 ・ 5月24日 【中止】 小野宿市協力 ・ 6月2日 シダレグリ保存管理委員会 ・ 6月11日 【中止】 十一面観音拝観 ・ 6月13日 油屋清掃作業 ・ 7月11日 油屋清掃作業 ・ 7月19日 【中止】 油屋見学 ・ 8月8日 油屋清掃作業 ・ 8月3日 新任教職員研修 ・ 8月4日 新任教職員研修 ・ 8月11日 県文化財パトロール ・ 9月4日 樹木診断 ・ 9月12日 油屋清掃作業 ~~~~~ ・ 11月15日 小野宿町並み講演会 ・ 12月 矢彦神社修繕竣工 ・ 1月26日 文化財防火デー ③ 小野宿問屋保存会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月11日 全員作業・総会 ・ 4月12日 【中止】 春季特別公開 ・ 5月10日 全員作業【中止】 定例公開
------	--

- ・ 5月24日 【中止】小野宿市協力
- 6月より、月1回の定例公開を再開
- ・ 7月19日 【中止】問屋見学
- ・ 8月2日 夏季特別公開・夏季公開講座
- ・ 8月3日 新任教職員研修
- ・ 8月4日 新任教職員研修
- ・ 8月17日 問屋見学

~~~~~

- ・ 10月7日 問屋見学
- ・ 10月22日 問屋見学
- ・ 10月 【中止】研修視察
- ・ 11月3日 秋季特別公開
- ・ 12月 冬ごもり作業
- ・ R3年3月 役員会

#### ④辰野町石造物調査会

- ・ 5月30日 総会にて、郷土研究会への移行を承認

~~~~~

- ・ 11月 上伊那郷土研究会交流の集い

⑤小野のシダレグリ自生地保全友の会

- 月1回の手入れ作業（支障木・藪切り作業、外来種除去、下草刈りなど）

- ・ 4月3日 【中止】総会
- ・ 7月 【中止】研修視察
- ・ 8月3日 保護監視作業

~~~~~

- ・ 3月 総会

### (2) シダレグリ再生事業経過報告

今年度から再生事業に着手する。すでに業者決定済。当初予定していた作業道のルート上に希少植物の群生地を見つけたため、作業道のルート変更を決定。増工につき変更契約について打ち合わせを実施。併せて立木補償について交渉を実施し、本格的な着工が10月以降になった。

去る6月2日に保存管理委員会を開催し、工法については委員の皆様にも承知してもらっている。作業の中盤頃に委員会開催を予定していたが、作業を実施できていないため、まだ委員会は1回しか開催できていない。10月末か11月頃に2回目の委員会を開催予定。

### (3) 矢彦神社修繕事業経過報告

昨年度、神楽殿の修繕が終わり、当初予定していたメニューはすべて終了したが、右回廊の雨漏りがひどかったため、継続事業として屋根の修繕を実施している。

屋根を剥いでいる時に、右回廊の天井裏から墨書が出てきた。何のために描いたのかは不明だが、立川の棟梁が描いたものであることは間違いのないこと。これから作る予定だった社寺のイメージかもしれない。修繕が進むと上から屋根を被せて見えなくなってしまうので、報告させていただいた。

また、拝殿側の屋根に、西春近の棟梁による明治12年の修繕の墨書、その左側に伊那郡小野村と書かれた墨書が出てきた。このまま屋根をふき替えて保存してもらう。

拝殿屋根の内側に、皮を剥いていないスギの丸太を構造材として斜めにかけて、角の垂木の傾斜を支えるようにしている。大工さんが言うには、普通は皮が付いていたら虫が付いてしまうので、こんな木肌の付いた材を使うことは考えられないが、立川は時にこういった雑な仕事をするらしい。彫り物は見事だが、見えないところでは十分な配慮をしないような作り方をすることがあるということで、意外に思ったのでご紹介した。工事は年内に完成。順調に進んでいる。

質問：彫刻設計図は矢彦神社の彫刻とは合わないか？

→ 矢彦神社はおそらく拝殿を作ってから回廊を作っているのだから、拝殿についての解説ではなく、次の請負のイメージではないかと大工さんが語っていた。

### (4) 『辰野町資料』について

122号について、昨年講演いただいた市川先生の講演録と、寄贈史料の中から太閤検地の名寄帳の写しと思われるものの紹介原稿を掲載予定。123号は問屋夏季講座

での鈴木先生の講演録の原稿を1月頃に発行したい。  
編集後記担当 122号：小池 123号：堀内

## (5) その他

### ● 町誌編纂時採訪史料について

昨年度、所有者全員に所在確認の手紙を発送したところ、文書の管理についてのご相談を何件かいただいた。その後新型コロナの流行があり、すぐに動けないのでお待ちいただくようお願いの文書を出した。近日中に、相談希望者と、お返事をいただけていない方に対し、相談会の通知を発送予定。寄贈されたい方からは寄贈を受けたい。お返事のない方からの反応も見たい。

### ● 『辰野町の指定文化財』印刷について

前回の審議会にて原稿をご確認いただいた。その後写真の撮り直しをし、前回刊行以降に指定されたものを追加した。町内69件の指定文化財。10月の選定委員会にかけて、これから印刷していきたい。所在地点や所有年月日についてはここには掲載せず、昨年作成した文化財マップとセットで見てもらおう。小中学校や図書館等に配布し、残りは希望者に配布予定。

意見： 無料配布にすると、もらった人が失くしてしまうかも。

意見： 保存樹木は、指定した時は皆勢いがあったが、このような時代になってくると管理が大変で、所有者の皆さんの意気込みも変わってきてしまった。お金だけでなく、人手を確保できない。これからの文化財の維持は大変だと思う。

### ● 赤羽焼かま修繕

現在、アーチの天井が崩れそうだったり、外壁にヒビが入ったりして危険。今年度初頭から修繕予定だったが、諸事情により請負業者さんを探すところからやりなおしている。

昭和48年の保存運動を受けて、町が瀬戸市から職人を呼んで登り窯を移築したが、材料のレンガを耐火レンガでなく普通のレンガで実施。そのため火を入れると弾けてしまうため、登り窯としては使えない。それに対して目地は窯用のモルタルで、火を入れることで固まるもの。今はくっついているだけで、補強の役割を果たしていないため、よけいに崩れてしまっている。しかし指定文化財なので、セメントを入れて固めてしまうようなことはできない。今回の修繕も耐火モルタルで目地を埋めていく。また、予算の都合と、当初見積もりよりも傷みが激しいことから、最上部の部屋は入れないよう両側を塞ぐことにした。10月選定委員会で諮って実施したい。

外側目地に使う土の色目が合わず、業者さんが苦勞して探してくれている。契約のみ間に合うように締結し、土は一緒に探したい。

意見： 地元の土を使うのがいいと思う。

意見： 神長官守屋資料館の外壁に塗ってあるような、外観は土壁のようなコンクリート壁にするのはどうか。

意見： 赤羽焼かまは厳密な復元ではないので、形が残っていればいいのではないかと。将来的には考えていかなければ。

### ● 油屋の大戸復元について

本当は昨年度実施予定だったが、令和元年度の台風19号の影響で業者さんの予定が変わってしまい、今年度になった。先週から開始し、今は仮の戸が付いている。建具屋さんが大戸を作ってくれている。

大戸復元にあたり、信濃伝統建築研究所の和田先生に見ていただいたところ、元々は引き戸だったところを、ある時期から跳ね上げ式に変更してあるとのこと。事務局は元々跳ね上げ式だと思い、その設計で発注してしまったが、今回はそれでいいのではと先生にも言ってもらったので、そのようにしたい。年内完了予定。

質問： 予算はどのくらいか？

→ 約72万円

意見： 文化財修繕の際、職人さんの確保がこれからは余計に難しくなる。職人さんが生きていくためにも、せめて文化財的なものをつくるという仕事をお願いしたい。

● 辰野町景観条例について

令和元年12月に町で景観条例が施行され、建築物を建てる時にはガイドラインに沿った申請が必要になった。教育委員会にも、遺跡の有無も含めて合議で確認が来る。条例の中には、景観重要建造物および樹木の指定や、住民協定、景観形成活動団体の登録など、住民の意思を取り込みながらこの制度を使っていくという趣旨があるようだ。小野宿や小野地区についても具体的に書かれている。せっかく景観計画を策定したので、小野の景観について区と協力しながら検討していければと考えている。時間がある時に目を通してほしい。

最近では太陽光発電パネル設置事業なども話題になる。住民協定を結ぶことにより、地区の皆さんが共通認識を持ち、事業の線引きをできるかと思った。区長にもお話しし、景観形成住民協定の説明会を実施予定。その先に、小野宿や町屋敷の伝統的建造物群保存地区の選定へ向けたきっかけになればと思う。

● 資料館構想について

辰野町には美術館があるが、その他の人文・自然科学的な、町の紹介をしたり、資料を収集・保管したりする資料館がない。実施計画では毎年理事者に必要性を説明しているが、毎年先送られて話が進まないため、このあたりで方針をはっきりさせたく、今日の議題に載せた。

昨今は市町村レベルでも、公文書が町民の財産であるという意識のもとに、専門知識を持つ人によって適切に管理される時期が来ていると思う。県内では昨年2館の公文書館が設立され、公文書の取り扱いでは全国的に先進地になりつつある。辰野町でもそろそろ公文書の取り扱いについて自覚しながら、これまで町になかった資料館も合わせて一つの建物にして、県立歴史館方式みたいなものを建設していく方向で考えていけたらと思っている。他市町村の現状を見ることから始まり、町民の皆さんがどう考えているかも探りながら、大まかな形をつくり、それをはっきりした形にしていくために設計し、何年先までに何、というタイムスケジュールに乗せていけたらと思う。

また、各地区の個人宅で保存している貴重な古文書類も、すでに破棄したという話も聞こえてくる中で、消滅を防ぐための拠点施設を置かなければならない。古文書の扱いに迷う人や、出てきた資料への問い合わせに対応する部分が弱いので、町として受け入れる拠点となる場を真剣に考える必要がある。ご意見を聞かせてもらえれば。

質問： 収蔵を想定？

→ むしろ収蔵がメイン。個人所有の古文書を受け入れることができるような建物。昨年は安曇野市と東御市が公文書館を作っている。

意見： 公文書を適切に扱うために働く人を「アーキビスト」というが、それをしっかりした国家資格にしようという動きもあるそう。

意見： 上伊那郡内で（資料館的な）施設がないのは辰野町だけと聞いている。事務局からは施設の建設を考えなければという話が再三あり、本当にそういうことであるなら、審議会として町に要請をするような行動を起こさなければと思う。審議会委員で郡内の施設を訪問して調査し、その報告と意見を添えて町長にきちんと申請するのはどうか。

→ 賛成多数

質問： 職員の確保は難しくないか？

→ 公文書の管理については町文書係が掌握して実施するべきであると思う。財政的には、すでに美術館がある状態で、公文書館と資料館を建ててくれとはとても言えない。それならば全国的に問題になっている公文書館と資料館構想を合わせて。公文書は役場の紙ではなく町民に対してやっている仕事であり、公文書の扱いに自覚的になるために公文書館を置くのであるから、そういうところには専門の人を置かざるをえないと思う。

質問： 運営はどのような形を想定？

→ 公文書館のできた役場では、今使っているもの以外のすべての公文書を公文書館で預かり、残すもの・廃棄するものをガイドラインに沿って管理する。必要な書類は公文書館に申請して見せてもらう。一元管理で、事業担当職員の裁量で書類を捨てたりできないシステム。

意見： 文化財保護審議会の話題にするには荷が重い。公文書は大切であるが、この問題の主旨は文化財保護ではなく公文書保護。教育委員会内でどうにかできる話ではな

く、町に公文書に対する部署がないと始まらない。  
→ 長野県では、古文書も公文書館で扱うべきものとしているので、行政文書の問題も併せて、歴史資料も保存していける施設を考えれば。

質問： 視察の場所は？

→ 郡内の資料館や、県内の公文書館。事務局で日程調整を。

## 5. その他

### ● 神明神社の天狗祭りのカメラマンについて

天狗祭りでのカメラマンの人数が地元の方よりも多く、天狗を撮ってまわっている状況が、祭りの運営や進行に支障をきたしているように見受けられる。地元の方の、大勢に見てもらいたいというご意向があるのかもしれないが、このままでいいのだろうか。町の指定文化財でもあるし、神事の形を守っていかなければいけないのでは。ご意見を頂戴できれば。

質問： 他の祭りではどのような対応？

→ 撮影場所指定や、フラッシュ規制によって神事の雰囲気を保つ所も。

意見： 神事からイベントに近い形になっている所もあるかもしれない。地元の人はどう思っているのか。

→ あくまで地元の皆さんがどうしたいか。無形文化財は人が行うものなので、やり方にも決まりがない。審議会の中で提案をすべきかわからない。

意見： 正式名称は「お舟祭り」。いつからか天狗祭りと言われるようになってしまい、人も大勢集まるようになってしまった。

→ 地元から指定名称変更の希望があれば、審議会でも可。

### ● 樹木診断の結果について

①矢彦神社社叢 ②三輪神社のニセアカシア ③御料塚とサワラ の3か所を実施。

① 敷地南側の木が住宅まで張り出している。将来的に保存管理計画をつくる予定があるなら最低限のみ実施すべきとの県からの指摘を受け、部分的な枝おろしと枯死木の伐採を実施予定。保存管理計画策定については小野神社や塩尻市と足並みを揃えて。

② 樹木医さんによるとニセアカシアには寿命があり、三輪神社の木はすでに寿命を迎えている。いつ倒れてきてもおかしくないため、切るしかないとのこと。宮司さんには電話で報告済。役員会で報告することなので、診断書が届き次第お送りする。

③ 所有者から、風が吹くたびに心配になると連絡を受けて実施したが、樹勢は良好。高さをおさえて倒木を防ぐより、枝をすいて風が入るような処置をしたらと提案いただいた。

④ 古城のケヤキも見てもらった。南側の木の幹から枝が生えることを期待していたが生えてきていない。

補足： 古城のケヤキは2, 3年様子見。枝が出てきたら、いいものを残して選定するとい

い。  
御料塚のサワラは樹木医さんが褒めていた。他の地区のサワラと異なり、富士山のようにどこから見てもいい枝ぶりで、それは根元が健康な証拠。ウロはブロックで埋めてあるが、コンクリートで直して、地肌の色に合わせて彩色できる。口約束ではあるが、県内造園業者でつくるボランティア団体「緑の輪」で研修という名目で手入れをさせてもらいたい、と先生もおっしゃっていた。

意見： 地元の支援がなく、所有者だけで管理するのは難しい。祝殿やお宮はみんな苦勞をしている。

### ● 事務連絡

#### ・ 町天然記念物（樹木）の成長について

『辰野町の指定文化財』改定版印刷にあたり、天然記念物（樹木）の測量を平成4年振りに実施。樹高を算出したが、町誌編纂時の樹高とも平成4年の樹高とも合わない。小さくなってしまった木もあり、ばらつきが出てしまった。幹周りは、50センチ程度順調に成長していることが確認できた。

- ・ 「まちづくり通信」第7号の発行について  
信大工学部の学生が昨年実施したワークショップの内容のまとめを掲載した。近々小野地区に全戸配布する。コロナの影響で信大工学部の動きが止まってしまい、学生と楽しく交流した地元の皆さんが醒めてきてしまうのがもったいない。また小野に学生が来て、一緒に町並みについて考えてくれればありがたい。
- ・ 町環境審議会について  
町文化財保護審議会からメンバーを1名出してほしいとのこと。役員交代につき、松田→中村に

## 6. その他

## 7. 閉会